

2022 年度 学校関係者評価

2023 年 2 月 18 日

建国小学校学校 関係者評価委員会

委員長 徐瑛基

日時:2023 年 2 月 18 日 (土) 13 時半～15 時半 本校 図工室

参加者: 教頭 梁真規先生 教務主任 李福子先生 PTA 小学校会長 徐瑛基 (小 3)

副会長 尹勝鎬 (小 3) 副会長 尹尚鎬 (小 1)

教頭先生の梁真規先生、教務主任 李福子先生に「学校評価アンケート 自己評価」を説明して頂きながら、アンケート評価と照らし合わせ、「学校関係者評価」を行いました。

今年度、アンケートの設問は昨年度と同じ設問でした。また、児童アンケートは、ロイロノートより回答、保護者アンケートは、Google フォームからのインターネット回答としました。

○民族的なもの (項目 **児童** 8, 20 **保護者** 14, 15)

民族教育に関して、9 割以上の児童が、建国での学びが自分のためになっていると評価しました。今年度、全 2000 語を集めた「絵でわかる韓国語辞典」を作成しました。子ども達が学びやすいように、色、食べ物、職業などカテゴリー別に分類し、韓国語を使う場面から手に取りやすい仕様と大きさにしました。この単語辞典とクレスカードの単語アプリ学習を紐づけ、3 年生以上の授業や宿題で活用し、4 年生以上の韓国語単語級数試験にも応用させました。また、新しく単語クイズ形式の学習プログラムも導入しました。教科書の語彙や内容を家庭でも復習できるようにして、語彙力や単語の活用、発展学習に役立てています。このように、独自の教材開発と ICT を活用した学習が成果を上げていると読み取れます。また、秋の韓国語イヤギ大会では、一人一人の発表を保護者参加で実施でき、学習の励みとなりました。7 月の韓国語能力試験では韓国語 1 クラスは TOPIK 2 (得点により 3.4.5.6 級合格) を、韓国語 2 クラスは、TOPIK 1 (得点により 1.2 級合格) をそれぞれ受験しました。その結果、5.6 年生の 86%が目標を達成することができました。受験時期や試験対策補習などを再考し、次年度につなげます。保護者アンケートでも小学校の民族教育の取り組みや入学後の満足度を保護者の 9 割以上が高く評価していました。

○英語学習 (項目 **児童** 9)

他の項目と比較すると、児童の英語学習の評価が 75%と、昨年度より微増はしたものの少し低い結果でした。昨年度、英語の到達目標を引き上げ、英検対策や文法学習のカリキュラム再編成をして 2 年目を迎えました。3 年生から単語学習 Class Card を取り入れ、英単語を読む (音声)、訳語、マッチングゲームなど、それぞれに目標値を設定し、課題を出しています。一方で英単語のスペリング (書き) やテスト機能 (自己採点) は、難しく時間もかかるので、宿題が増えたと負担感を感じている児童が一定数いることも看過できません。Class Card を有効活用しながら、英語に対する苦手意識を払拭できるよう、学年ごとに 1 回の課題の量や目

標値を見直し、個々へのサポートをより丁寧に行っていきます。12月の英語レシテーションコンテストでは、希望する児童が堂々と英語の発表を楽しみました。1月の英検では、5年生で5級、6年生で4級合格を目標に受検しました。その結果、5.6年生の約80%が目標に達成することができました。また、4級を受検する児童が昨年度の5名から16名に増えるなど、全体的にレベルは上がっています。語学の成果は一朝一夕に出るものではないので、日々の学習の積み重ねを丁寧に行うとともに、より英語が身近に使える環境作りを学校全体で研究してもらいたいと思います。

○学習面 (項目 **児童** 2, 3, 4, 5, 6, 7 **保護者** 4, 5, 6, 7,)

保護者アンケートでは、どの項目も9割以上の評価でした。児童の結果でも、授業は分かりやすいと感じ、宿題も自分の力でする習慣がついているようです。しかし、昨年同様、設問4「授業で自分の考えを伝え、意見を発表する」の児童評価が8割に届かず73%でした。今年度、教育アドバイザーの平井総一郎先生を迎え、授業研究、教員研修を10回実施しました。児童が学びの中心となる授業への転換期だと位置づけた1年でした。ペアや小グループで伝え合い、協働し、学ぶ授業は増えています。次の段階では、小さな失敗でくじけるのではなく、原因を考えて修正していく力や物事を批判的に捉える力の育成が課題だと考えています。自らが問いを見出し、問題意識を持って、解決する探求型学習に向けて、今後も研鑽を積んでいきます。

2023年度からは、一人1台の端末を整備できる見通しとなりました。新たに「情報」の授業も新設し、情報活用能力の育成とそれを発揮させる授業の在り方を今後も継続して研究していきます。また、学習アプリについては保護者の方にも操作を体験してもらおう機会を設けていただくようお願いしました。

○人権的なもの (項目 **児童** 10, 17, 18, 19 **保護者** 12, 13)

児童アンケートでは、どの項目も9割以上の評価を得ました。道徳で「いのち」「人権」「福祉」に関する学習をしています。人権学習は、外部団体や専門講師の協力を得て、オンラインや対面での学習を実施しました。また、今年度は「いのちの教育」を全学年で1~2回実施し、子ども達が命の尊さや他者との関わり方、思春期の心や身体の成長、自己の内面について学習しました。内容やカリキュラムを検証し、今後も系統的に学べるよう継続していきます。また、児童を取り巻くSNSや情報トラブルについては、全学年で「SNSノート」を活用した情報モラル学習を年6回実施しました。今後は、トラブル内容や危険性を知っているだけではなく、学校生活や日常生活で自らが判断して、行動できる人となるよう家庭とも協力しながら進めていきます。

一方、今年度、保護者アンケートの12番「子どもの人権やいじめ問題の対応」項目が、昨年度より10%以上評価を下げました。このことから、子ども間のトラブル発生時の対応を教員全体の共通課題とし、児童や保護者の方と連携しながら真摯に対応していくことを次年度の重要課題としていただきたいと思います。

○学校生活 (項目 **児童** 1, 11, 12, 13, 14, 15, 16 **保護者** 1, 2, 3, 8, 9, 10, 11)

児童の9割が、学校は楽しく、友達と仲良くきまりを守って、充実した学校生活が送れていると読み取れます。コロナ禍の3年間は、学校行事は毎年形式を変えながらの実施でした。子ども達もその対応の変化にしんどさやストレスを感じたことでしょう。今後、感染対策が緩和された後の学校生活への変化にも柔軟に対応できるようサポートしていきます。保護者アンケートでは、学校のきまりや活動、安全教育、学習環境、相談対応などすべての項目で9割以上の評価でした。児童が安心して過ごし、自分の能力を自由に発揮し高められる

よう、先生方には力を合わせて、より良い学校を作るために取り組んでいただきたいと思います。

保護者も今後とも理解・ご協力できるよう約束しました。

○総括

全体的に高評価となりました。保護者の評価は、昨年とあまり変わらずほとんどの設問で良い評価となっていました。保護者の設問でデジタル教材や学習アプリを活用し、楽しく分かりやすい授業を行っているという点では今後益々発展していく ICT を活用する授業が増える中で、保護者も宿題で使うタブレットの使用方法なども学び理解しないといけないと感じました。

児童アンケートでは昨年同様、自分の考えを伝えたり意見を発表したりという点で8割に届かず、今後も先生方には児童皆が積極的にプレゼンテーションできる場、発言する場を設けて頂きたいと思います。

今年度は、コロナの様子も落ち着き、昨年度より行事を沢山して頂いた事は児童も喜んでいましたし、保護者としても日々お忙しい業務の中制限がある中でしてもらった事はとても感謝しています。

次年度はコロナ禍前の生活に徐々に戻る中、コロナ禍前の行事ができるよう PTA も学校側と協力し合い、より児童が良い学校生活を遅れるように共に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、今年度の保護者アンケートの回答率は53%でした。原因としまして、Google フォームからのアンケートだったためかと思えます。学校が ICT に力を入れている中、紙でのアンケートも用意した方がいいのではないかと意見もありましたので次年度はまた参考として考えて頂きたいと申しました。

そして、1月末のインフルエンザによる学級閉鎖と時期を同じだったためでもあるかと思えます。

次年度からは早い段階でお知らせをし、更なる協力を得たいと考えます。